



わかやま

No.22

和歌山県精神保健福祉センターだより 2005年1月

「一人の精神科医師として・・・」

和歌山県精神保健福祉センター所長 朝井 忠

あと3ヶ月もしない内に退職することになりました。ニュースレターに最後の総括を書くように言われ、迷っておりますが、仕方なく、「一人の精神科医師として・・・」との文を書こうと思いつきました。

医学部5年、6年の時に学園闘争がおり、自然にと言うか、何となく、その渦の中に巻き込まれていき、卒業と同時に42青医連とよばれ、全国の医学部卒の85%が医師国家試験をボイコット。それに医局講座制反対、大学院ボイコットなどをし、大学執行部(学長を中心とした教授数名)と団交などをし、また、神経精神科医局とも団交し、無免許医師を「和歌山県県下の精神病院に採用せよ」と言ったことなどを思い出しています。

地域にも積極的に入ったし、診察室で患者さんが来るのを待つ精神科医療を拒否していたのだと思います。何とか再発を防ぎ、再入院を防ぐことが大切であると考えていたようです。当直は週に3回ぐらい(300円の当直が多かったのですが)していました。

48歳の時、古座川町で脳内出血を起こし、半身不随・失語症などが残りまして、県立病院で働くには無理があると判断され、東教授と百溪先生が、精神衛生センターの方が楽に仕事ができるので替わるようにすすめられ、それ以来、精神保健をやって20年、定年を迎えることになりましたが、東教授も百溪先生も今は亡き人になってしまいました。

清水町で40年間地域保健福祉活動をしていた京都大学医学部の精神科の桑原治雄先生の指導もあったのですが、9町村に入って15~20年間、地域保健をやりました。9町村では県立五稜病院の若い医師達の助けも借りて、200ケース以上の精神障害者の人達と共に考え、何とか再発防止やら、再入院を防ぎました。

何故に精神科の医師になったのか?いや、何故に医学部に進んだのか?と、よく質問されました。考えてみると、絵描きになろうと高校時代は考え、デッサンや油絵を描く毎日で、勉強はほとんどしていませんでした。両親からは絵なんか描いていても生活できないから・・・趣味で絵を描き、他の学部を受験するように言われていましたが、高校卒業後、東京へ家出して・・・と考えておりました。アルバイトをしながら絵を描こうと思っておりましたが、今から想うと「危なっかしい人生」であったらうと冷や汗が出てくるようです。

高校時代の同級生で、阪大や大阪市大の理科系にパスした人達が、競争率2倍の文学部に2回も落ちる自分を見て、不思議そうに「何回も落ちるのであれば医学部やで」と言われて、それでは医学部にするか、と言うことで医学部を受験することになり、25倍~48倍の競争率では通るはずがないと考えていましたが、和医大と奈良医大と神戸医大にひっかりました。よく考えると、文学部受験の際に必要な「社会」や「国語」がいない大学に入れたのは何ともおかしな話です。

大学に入った頃は、高校の美術部のメンバーと3年間グループ展を開き、5回目が解散展でした。その3回目の展覧会にサントリーのウキスキーの瓶をデザインした植木茂画伯が、「医学部に何故いったの、絵の方に進むべきだったね」と言われましたが、愚生自身は絵は優れてないと思っていましたので人生におけるエピソードであったわけです。

いまだに何故医学部にきたのか?はっきり答えられませんが、弟が愚生の実力を知っており、医学部に入学出来るのではと学部を変更して医学部を受験して、兄弟3人が医師になりました。そんな関係で、3人の兄弟の息子はあわせて4人ですが、医学部を卒業して医師になりました。息子達に「医学部を受験せよ」とは言ったこともないのですが、息子達の側からすると、「医師になる」べく方向づけられていたのかも知れません。兄弟で話すことが多いのですが、自分たちが医師になったことで、息子の将来を決めてしまった様に思えて仕方がありません。医師にならなかった方が良かったのではないかと65歳前後になると、集まるごとに反省をこめて話し合っています。

もくじ

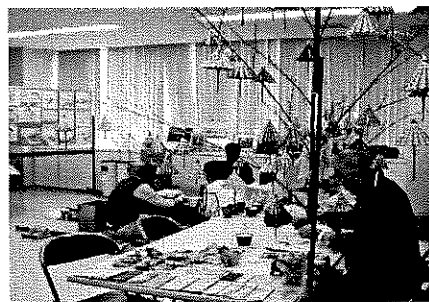
- P 1 一人の精神科医師として・・・
- P 2/3 特集 精神保健福祉普及啓発事業
- P 4 てんかん協会和歌山県支部からの報告
- P 5 メンタルヘルスニュース
- P 6 は一とふるネットワーク「貴志川町役場 久保 登希子さん」
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ「和歌山ビッグ愛」2階
☎(073)435-5194 FAX(073)435-5193
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

小さな秋のこころのふれ愛展 H16.10.31(日)~H.11.1(月)

和歌山県精神障害者家族会連合会や和歌山県精神障害者団体連合会など各精神保健福祉に関係する団体等が集まり、精神保健福祉に関する啓発と団体間の交流を目的に開催されました。作品の展示販売、作業所体験・箱庭療法体験等の体験コーナー、各種相談を行いました。当日は、テレビや新聞社に報道して頂き、広く県民への啓発となりました。また、事業をとおして団体間の交流も深まり、継続して行くことが大切であると実感しました。



第1回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会 H16.11.4(木)

和歌山ビッグホエールにて県下12チーム参加の下、同大会が開催されました。(主催:県精神保健福祉協会・県作業療法士会)。

長時間に及ぶ熱戦の末、記念すべき第1回目の優勝カップは若葉・ふきのとう合同チームが手にしました。アタックあり、ブロックあり、コートの外までボールを追う選手の姿に応援席からも熱い声援が飛び交いました。

(対戦結果) 優勝 若葉・ふきのとう合同チーム
準優勝 びっきーず
3位 日高ファイターズ
4位 やおきハモファイターズ

(他参加チーム)

和歌山市保健所、田村病院デイケア“オレンジフェニックス”、国保野上厚生総合病院、紀の川病院、紀の川病院デイケアチーム、県立こころの医療センターデイケア、社会保険紀南総合病院新庄別館、紀南ベンケイズ、ふれあい作業所

参加チームの皆さん、お疲れ様でした。また、今大会では県バレーボール協会を始め、一般ボランティア、学生、日本精神科看護技術協会等の皆さんのご協力を得て、大会を盛り上げることができました。



アタック！！

わかやまこころのフェスティバル2004

(わかやま人権フェスティバルと共催)

第7回目を迎えたこころフェスティバルは、12月4・5日ビッグホールにて開催されました。初日の大雨にもかかわらず、1万人の来場者で賑わいました。精神保健福祉協会、精神障害者家族会等の関連団体が参加しての出店も多数あり、リラクゼーション体験や相談、似顔絵等を通して多くの来場者がこころの健康や病気について考え、障害者を理解する機会となりました。

また、フェイスプランナー長田文子氏の講演会では『メイクとこころの癒し』をテーマに、メイク実演を取り入れながら和やかな講演会となりました。



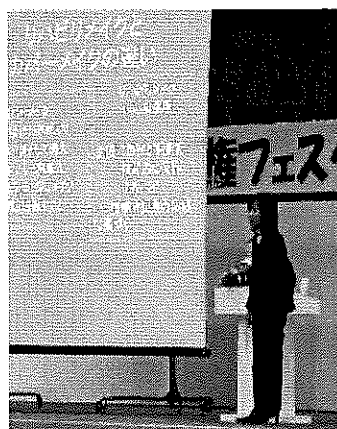
バーチャルハルシネーション体験



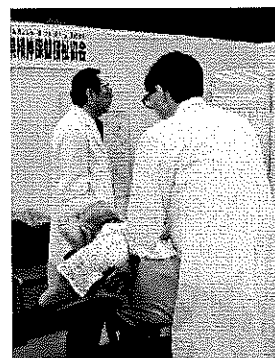
作品展示

参加出店ブース内容

エスニックカフェ（コーヒー販売）
パン・自主製品の販売
パネル展示・書籍販売・相談コーナー
似顔絵・ピアカウンセリング
リラクゼーションコーナー
（ハーブティ試飲・ストレスチェック）
参加体験コーナー・作品販売・物品販売
オープンスピークスミーティング
餅つき大会・餅の販売



講演会



クイックマッサージ

こころのフェスタ in熊野2005

が開催されます。

日時：平成17年3月5日（土）13:00～16:00

場所：那智勝浦町福祉健康センターにて

内容：コンサートと当事者の主張

主催：新宮保健所・新宮保健所古座支所

精神保健福祉センター

このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。
今回は、社団法人日本てんかん協会 和歌山県支部」です。
事務局の 土橋 登世子さんにお話を伺いました。

てんかん協会和歌山県支部 からの報告

「財団法人日本てんかん協会」は1974年に全国組織として
発足。和歌山県支部は1987年にできました。
現在、県内の会員は74人。患者本人、家族だけでなく、医師、
養護学校教諭などの専門職の会員も多く「てんかん」という
病気、障害に対して様々な視点で取り組み、活動しています。



サマーキャンプ

夏休み、親子で集まります。学生ボランティアにも手
伝ってもらいます。

和歌山県支部の主な活動

「てんかん」の正しい知識と理解を広めるために・・・

○ 県民講座

毎年、県下のどこかで開催します。だれでも、参加できます。

○ 勉強会

会員の要望に沿って、不定期に行います

てんかんフリートーク

私のてんかん、わが子のてんかんについて日頃の思い、不
安など自分たちで話し合います。専門家が加わることもありま
す。

てんかん個別医療相談

てんかん専門医が相談をうけます。セカンドオピニオンにも
なります(会員は無料)



機関紙発送

月刊誌『波』、支部報『わかやまなみ』を毎月発送します。

◎月1回、会員が集まって発送作業を行います。月初め、
場所は和歌山市ビッグ愛9階サークル室です。日程は前月号
の『わかやまなみ』に載ります。お近くの方はおいで下さい。
情報交換をしながら作業しましょう。

もうすぐ勉強会をします

講座 「ピアカウンセリング入門」

2月20日(日)午後2時～4時半

和歌山ビッグ愛 801

講師: 笹尾 恭子さん(ハッピーステーション)

てんかんの病気を持っている人、病気や障害の子ども・家族
を持つ人、みんなピアな立場です。自分を語り、認めることによ
って、私自身のなかにある“力”をだせるのです。そして、悩んでい
る、困っている人にも“力”のおすそわけをしましょう。

【和歌山県支部】

〒640-8461 和歌山市船所28-1 土橋 方

代表 森 啓子

事務局 土橋 登世子

TEL & FAX 073-453-1293

県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

◆和歌山県精神障害者家族会連合会NPO法人に
平成16年10月18日をもって和歌山県精神障害者家族会連合会がNPO法人に認証されました。

◆伊藤静美氏(一麦会)が

日本精神保健福祉連盟会長表彰受賞

29年に渡り、精神障害者の地域での自立実現のため作業所、家族会、一麦会を立ち上げ、地域精神保健福祉活動に貢献されてこられた伊藤静美氏の功績に対し、H16/10/21長崎市で行われた精神保健福祉全国大会で表彰されました。

◆那賀郡「障害者の日」記念イベント

障害者の日を中心とした12月1日～18日の間、那賀郡を会場に障害者福祉施策や摂食障害、引きこもり等についての講演会、映画鑑賞会等11のイベントが開催されました。

主催：障害者の日広がりネットワーク

◆全国生活支援きのくに(わかやま)大会開催

H16年11月25日より3日間に渡り田辺市を会場に、「精神障害者の地域生活支援」実践研究をテーマに行われました。全国より当事者、家族、社会復帰施設職員、関係者ら300名が参加しました。

主催：(社)全国精神障害者社会復帰施設協会
全国生活支援～きのくに大会実行委員会

◆第3回近畿7県の精神障害者スポーツ(ソフトボール)大会に田村病院デイケアチーム出場

10月7日(木)尼崎市で行われました近畿大会に田村病院チームが出場しました。結果は一勝一敗で決勝進出には及びませんでした。大会までの猛練習も含めて大健闘をされました。

主催：兵庫県

◆「痴呆」が「認知症」に

痴呆に対する誤解や偏見を解消するために、行政用語として「痴呆」が「認知症」に変わりました(H16/12/24～)。

◆◆◆精神科看護職員等人権セミナー

精神科病院に勤務する看護職員などを対象に、精神障害者に関わる人権についての研修会を10

月7, 8, 14, 17日にビッグ愛にて開催しました。講義、グループ討議、先進地病院見学、シンポジウムなど盛りだくさんの内容で、受講生からは日常業務を振り返ってみるいい機会だったとの声が多くありました。 主催：和歌山県

◆◆◆精神障害者訪問介護員フォローアップ研修

平成16年10月27日(水)に今年も講師に三田先生を招いてヘルパーのフォローアップ研修が開催されました。事例の発表は、2事例行われましたがどちらもホームヘルプサービスの利用により当事者の病状や生活が安定していく様がよくわかり、生活のパートナーとしてのヘルパーの役割が理解できました。また、先生の講義では、当事者の自立とは何か?自立に向けた関わりとは何かをわかりやすく説明して頂きました。

主催：和歌山県精神保健センター

◆◆◆SST初級研修

昨年度に引き続きSST普及協会認定講師の岸本徹彦先生を招き、社会生活技能訓練初級講座が開催されました(H16/12/16,17ビッグ愛にて)。参加者22人がロールプレイを通じてSSTの実践をきめ細かく体験しました。

主催：和歌山県精神保健センター

◆◆◆障害者ケアマネジメント従事者養成研修

障害者関連施設や市町村担当者などを対象に、12月9日から21日の延べ4日間に渡り上記研修を3障害合同でビッグ愛にて開催しました。厚生労働省のグランドデザイン案等が出された直後でもあり、受講者の意識も高く充実した研修でした。

主催：和歌山県

◆◆◆ひきこもり家族教室

今年度、当センターでは特定相談の中でひきこもりの相談を受けてきました。その一環として平成16年12月17日から5回1クールでひきこもりの家族教室をはじめ開催しています。第1回目は14家族の参加がありました。嘱託医の宮西先生より「ひきこもりの理解と回復のプロセスについて」講義をして頂き、その後情報交換をしました。

主催：和歌山県精神保健センター

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーです。
今回は、貴志川町役場の保健師、久保 登希子さんです。

はーとふるネットワーク



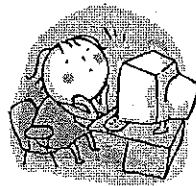
- 貴志川町に就職されて何年になりますか？
今年で4年目になります。
- 保健師として貴志川町でどのようなお仕事をされていますか？
貴志川町は、地区分担制と業務分担制になっています。地区分担では、一部の地域を任せられ、乳幼児から高齢者また精神障害をお持ちの方と多岐にわたり、相談・訪問活動に従事しています。業務分担では、老人保健を担当しています。とはいえ主として事務作業が中心で、実際の現場では乳幼児健診や妊婦教室など母子保健の分野でも活動することが多いです。
- この仕事をしていますと良かったと思う時はどんな時ですか？
障害をなかなか受け入れられず、保健師からのアプローチを拒否していたご両親とじっくりと関わっていく中で、時間はかかりますが少しずつよい方向に向かって援助することができた時です。困難なケースでも目を背けずに、対象者に寄り添い共に乗り越えられた時、その一つ一つのケースとの貴重な出会いが、自分自身の人生を豊かにしてくれている気がします。
- 仕事で苦労する点はどのようなことですか？
援助を必要とする対象者の話しに寄り添い・耳を傾けていると、相手との距離が近づきすぎてのめりこんでしまい、時として対象者の支援という立場で関わるということを見失い、一緒に悩める人となりがちなところ。しかし、そんな時はよき同僚や先輩など、第三者の冷静なアドバイスをもらって支えられています。
- 貴志川町のPRを一言お願いします。
生涯学習宣言の町であり、公民館・各コミュニティセンター

では、生涯学習の拠点として様々な学習の場を提供し、豊かな人間性と生きがい追求できる活動を行っています。また、全国的に高齢社会に突入しており、当町も例外ではありませんが、和歌山県下では老年人口に比べ年少人口・生産年齢人口の割合が多い、若い活気のある元気な町です。

- 休日はどのように過ごされていますか？
友達と、ドライブやランチに出かけたり、連休になっている時なんかは、小旅行に出かけたりしています。旅行が大好きなので、旅行中はもちろんのこと、プランを考えながらもまだ見ぬ地に思いを巡らせている時がとっても楽しいひと時ですね。
- 今後の抱負を教えてください。
現在貴志川町では、『健康日本21計画』の市町村計画を2年がかりで策定中です。その中で、町の様々な健康問題が明確化されました。今後、保健師としてこれらの健康問題に対してアプローチしていくためには、施策の企画・立案に加えプレゼンテーション能力が要求されます。これらは私の苦手意識の強い分野ですが、何事にもチャレンジ精神を忘れず取り組んでいきたいと思っています。
- 久保さんから、次の方のご紹介をお願いします。
保健学科の同級生で、唯一の男性であった有田市の保健師西川博さんを紹介します。彼は女性集団の中で、学習中にそれぞれの意見の食い違いから話し合いがエキサイトしてしまった時でも、中和剤としてそして良き聞き役として頼もしい存在でした。今でも、時々研修会で顔を合わせては、昼食を一緒に食べたりしています。

研修等のお知らせ

- (センター主催の研修)
- こころの健康講座
 - 日 時：2月8日(火) 13:30~15:00
 - 場 所：紀南文化会館
 - 対 象：一般県民
 - テ ー マ：もし家族がうつ病になったら？
 - 講 師：和医大神経精神医学教室 篠崎和弘教授
 - 入 場：無料 只今、受講者受付中
- セルフ・グループ・セミナー(予定)
 - 日 時：3月26日(土)
 - 場 所：ビッグ愛
 - 対 象：一般県民



- (県内の研修)
- 子どもの虐待防止シンポジウム
 - 日 時：2月3日(木)
 - 場 所：県民文化会館
 - 主 催：和歌山弁護士会・和歌山県
 - 問合わせ：073(422)4580 073(441)2490
- 紀の国ドラッググリーンフェスティバル in 御坊
 - 日 時：3月16日(水)
 - 場 所：県立紀央館高等学校
 - 主 催：和歌山県・和歌山県薬物乱用対策推進本部
和歌山県薬物乱用防止指導員協議会
 - 問合わせ：073(441)2663
- 今後の障害保健福祉施策研修会
 - 日 時：2月12日(土)
 - 場 所：ビッグ愛
 - 主 催：和歌山県精神障害者家族会連合会
 - 問合わせ：073(474)2466

(県外の研修)

第16回全国精神保健職親研究会	2/18(金)~2/19(土)	国立精神・神経センター精神保健研究所 (問い合わせ 042-558-3107)
きょうされん精神障害者地域生活支援推進セミナー (大阪会場)	2/24(木)~2/26(土)	ホテルトーコー新大阪 (問い合わせ 03-5385-2223)
第37回全国精神障害者家族大会	2/24(木)~2/25(金)	東京厚生年金会館 (問い合わせ 03-3845-5084)

編集後記

巻頭のおお朝井所長が3月をもって退職されます。残念ながら読者の皆さまにお楽しみ頂いた「朝井所長のひとりごと」も終りとなります。センター所長として24年勤務され、精神保健を一から教えて下さった職場の父でもあります。ちょっぴり寂しい今日この頃のセンターです。